

設計・計画部門


かいの ちかし
貝野 悠

生年月日 1982年8月兵庫県生まれ
 最終学歴 2009年京都大学大学院
 工学研究科建築学専攻
 業務経歴 2009年(株)三菱地所設計入社
 2009年建築設計一部
 2012年建築設計五部
 2016年関西支店

●担当した主なプロジェクト
 2009年 常盤橋再開発事業
 2012年 渋谷董友ビル
 -キュービー渋谷本社ビル-
 2014年 (仮称)麹町六丁目計画 他

■青年技術者のことば

建築の設計とは、施主の思いや周辺環境、社会的文脈を真摯に読み解き、一つの特解に辿り着くための行為だと思います。

人が過ごす場所をつくるには、人が何を求めているか、社会がどこに向かっているかを知る必要があります。それには、様々な立場の人々との対話が必要となります。建築の設計とは、人のつながりを形にする行為と換言できるかもしれません。

では、意匠設計者に求められるものは何か。かつては一人の建築家が担っていた仕事は、構造設計や設備設計といった専門的な分業が進み、特に、組織設計事務所においては、意匠設計は構造や設備と並ぶ一つの部門にすぎません。しかし、創るべきものや創られる過程、姿勢は今も昔も変わらないものであり、豊かな建築、豊かな社会とは何かを考え発信していかなければなりません。

少ない経験の中ですが、意匠設計者には、真摯であることと素直であることが最も大事であると感じています。真摯な気持ちで様々なことに興味を持ち、幅広い知識と経験を蓄積するとともに、施主や他職能の専門部門、施工者など多くの人との対話を通じて真っ直ぐに方針を示すことのできる設計者になれるよう、これからも努力を続けたいと思います。

■すいせん者

西堀正樹
 (株)三菱地所設計
 執行役員 関西支店長


渋谷董友ビル - キュービー渋谷本社ビル建替計画 -

駅前の再開発が進む渋谷の北側、事務所や店舗、住宅が混在する少し落ち着いた雰囲気のまちの中で、日本を代表する企業の本社屋としてアイデンティティを発信しつつ、周囲のシンボルとしての役割を担うビルを目指した。

□ minimum - 本社ビルの在り方の追求 -

本社機能を有する事務所ビルの在り方とは何か。そこで働く社員や企画・商品、そして創造する社員が作り出す雰囲気空間が空間を彩ると考えた。また、将来の企業の在り方の変化にも対応できるニュートラルな空間を追求し、シンプルかつミニマムな形状・素材を用いダイナミックな空間を目指した。『minimum』というコンセプトのもと、プランは無柱の整形な執務空間とし、内外装は3つのデザインコードにて計画を取り纏めた。

- LIGHT 光 -

光を多く取り込む透明感のあるダブルスキンファサード。女性が多い会社であることから、曲面パネルを用いることで外観のスクエアなファサードの中にも柔らかな印象を与えた。

- BORDER 切り取る/取り込む -

低層部のPC大庇は、空間を切り取りながら、外部から内部へ貫通し内外連続した空間を生み出す。本社の顔となるエントランス空間は、開かれた企業というイメージを与えると同時に、内からも外を感じることができる。

- WHITE 白/潔 -

食品会社の清潔さをイメージし、PC大庇の骨材に白大理石を使用するなど白を追求。内・外装ともに白を基調としたデザインとし、中で働く人々や賑わいが主役となるニュートラルな空間を目指した。


□ 構造・電気・機械・施工が一体となったデザイン

ロングスパンの広大な無柱の執務空間、天井高の確保を実現するために構造提案したのがプレビーム大梁である。プレビーム大梁の下フランジを被覆するコンクリートはプレキャスト材で仕上がり美しいため積極的に露わにして天井のデザインの一部とした。コンクリート脇にはスリットを設けレターンスリットとして利用すると共に、ライン照明を配置することで、構造・電気・設備、そして優れた施工性が一体となったデザインの天井を実現した。

